

【入選】

誰かのために

宇土市立網田中学校 3年 村田 里菜

「自分が苦しみの中にいるとき、私は他の人を助けることができるのだろうか」

「前へ」を学んだときにそう思いました。そこには、地震で大きな被害があったにもかかわらず、ボランティアを続けた人のことが書かれていました。その方は荒木拓也さんといって、実家の酒屋で働いています。

私たち網田中の3年生は、職業講話で荒木さんから直接話を聞くことができました。

荒木さんの実家は、昨年70周年を迎えた、千種類以上の銘柄のお酒を扱っている酒屋です。地震のときは、商品の8割から9割が割れてしまい、被害額は1000万円を超えたそうです。店の床はアルコールであふれ、少しの発火でいつ火災が起こってもおかしくない状況でした。店の外に避難していた荒木さんはそんな中にあっても、駐車場で車中泊をされている人々に味噌汁などの食べ物を提供されました。そして、そのことをSNSで発信したことがきっかけとなり、ボランティア団体の人たちと一緒に、毎日200人から300人分の炊き出しを1か月以上続けられたそうです。

私はこの話を聞いて、

「自分だったら人のために1か月以上も続けることができただろうか」「実際に地震のときに、人のために何かしたのだろうか」と、自問自答しました。地震のときの私はまだ小学生だったとはいえ、休校の間も「早く学校が始まらないかな」と自分のことしか考えきれなかったのです。自分よりも困っている人を優先して何かをするのは簡単なことではなく、大きな勇気が必要です。しかし、私も人のために行動できるようになりたいと思いました。

そして、荒木さんは仕事のやりがいについても話してくださいました。荒木さんは、自分がすすめたお酒を買ってくれたお客さんが、「おいしかった。」と言ってまた店に来られたときにやりがいを感じるとおっしゃいました。

また、その一方で、「スーパーのお酒より高い。」とお客さんから言われて困ったこともあるそうです。しかし、安売り店より値段が高い分、一つ一つ心を込め、誇りを持って仕事をしていると話してくださいました。

私はまだ、将来の夢が具体的に定まっていませんが、どんな仕事であっても荒木さんのように自分の仕事に喜びと誇りを持って働けるようになりたいと感じました。

最後に荒木さんは、「学ばない者は人のせいにする。」とおっしゃいました。「失敗しても人のせいにせず、自分自身を見つめ直して努力することが大切」ということだと思います。今回学んだことを忘れず、いろんなところで自分のためだけでなく人のために行動し、いつも私を支えてくれる周りの人に感謝しながら生きていきたいです。